

Quality is more than a word

ESPEC



第 **62** 期

中間株主通信

2014年4月1日から2014年9月30日まで



株主のみなさまへ



代表取締役社長 いしだ まさあき
石田 雅昭

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

2014年度第2四半期累計期間(2014年4月1日～2014年9月30日)の日本経済は、米国経済の拡大や円安を背景とした企業の競争力向上などにより回復基調が継続しましたが、欧州経済の減速や中東の地政学リスクなど世界経済への影響が懸念さ

れる状況となりました。当社の主要なお客さまにおきましては、自動車関連メーカーでは積極的な投資が継続するとともに、その他のメーカーでも投資意欲の改善が見られました。こうした中、当社は、国内市場において、自動車市場での取り組みを強化し、汎用性の高い標準製品の売上高が前年同期比で増加しましたが、カスタム製品は好調であった前年同期の水準には及びませんでした。

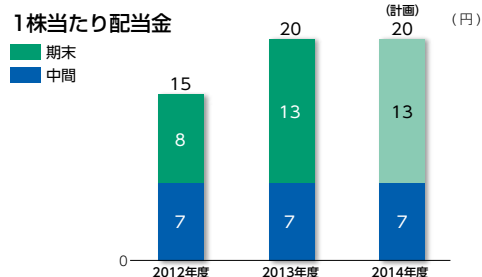
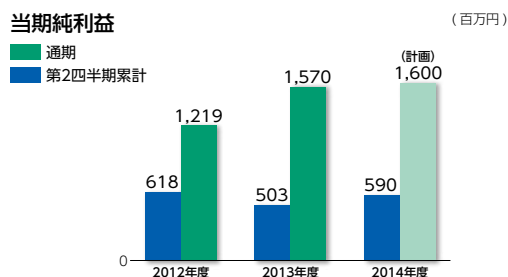
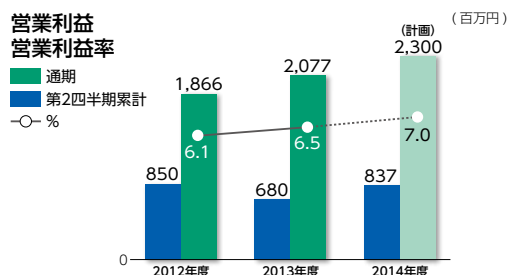
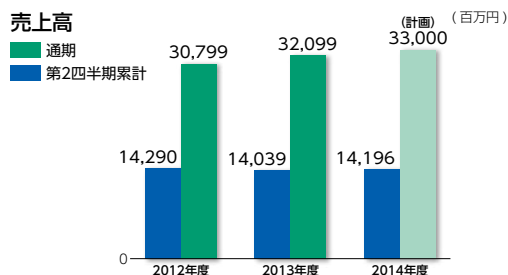
また、海外市場では、米国をはじめ中国・東南アジアにおいて営業活動の強化に取り組み、米国子会社の売上高が前年同期比で増加するとともに、中国・欧州への輸出が好調に推移しました。

こうした結果、連結業績は、売上高は前年同期比で1.1%増と前年同期並みとなりましたが、営業利益は売上構成の変化などにより23.1%増、四半期純利益は17.2%増となりました。

中間配当金につきましては、前年同期と同じ1株当たり7円とさせていただきます。

なお、当第2四半期の営業利益・経常利益・四半期純利益が期初計画を上回りましたので、2014年10月31日に、当第2四半期の連結業績予想について修正発表を行いました。通期の連結業績予想につきましては、期初計画どおり、売上高33,000百万円、営業利益2,300百万円、当期純利益1,600百万円を予定しております。期末配当金につきましても期初計画どおり、1株当たり13円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



エスペック中期経営計画「プログレッシブ プラン2017」をスタート

当社はこれからもグローバル企業として成長し続けるために、事業ビジョン「ESPEC VISION 2025」を策定しました。2025年度の連結業績目標として、売上高600億円以上、営業利益60億円以上、営業利益率10%以上を掲げています。ビジョン実現に向けて4か年ごとの中期経営計画(Stage I～Ⅲ)を策定し、取り組んでまいります。

2014年度におきましては、Stage I であるエスペック中期経営計画「プログレッシブ プラン2017」をスタートさせました。その概要をご紹介します。

近年、ASEAN諸国やインドへの開発・製造拠点のシフトが進み、アジアでの環境試験ニーズが拡大しています。また、エコカーなど「グリーンイノベーション」や、高度医療・医薬品といった「ライフイノベーション」が世界各国の戦略に組み込まれ、成長市場として期待されています。

この4か年につきましては、攻めの経営をさらに加速させ、アジアでの販売拡大に取り組むとともに成長分野をターゲットに事業領域の拡大に注力し、新たに事業の柱を創造してまいります。



連結業績目標と成長のための3つの方向性

連結業績目標につきましては、2017年度に売上高400億円以上、営業利益40億円以上、営業利益率10%以上を目指してまいります。成長のための3つの方向性を以下のとおりご紹介します。また、株主還元の強化の取り組みとして、2017年度までに配当性向40%を目指してまいります。

1. グループ連携の強化による 成長する国・地域での売上拡大

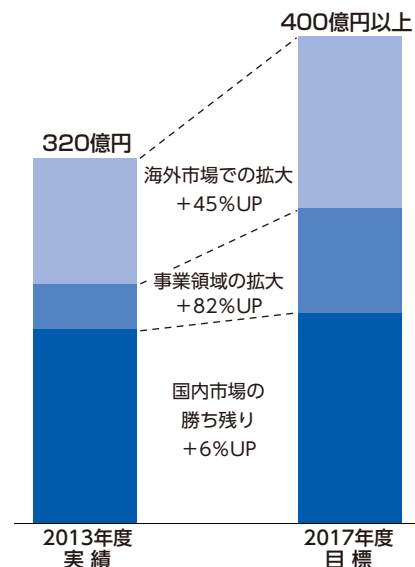
開発・製造拠点のシフトが進むASEAN諸国において、サービス拠点や受託試験所を新設し、顧客対応力を強化するとともに販売拠点の充実により売上拡大を図ってまいります。中国市場では、エスペック広東の生産能力の増強と販売拡大に取り組んでまいります。また、トルコ、インドなど新興国での販売拡大を図ってまいります。

2. 成長・戦略市場をターゲットとした事業領域の拡大

車載用二次電池を中心とするエネルギーデバイス市場において、製品ラインナップと受託試験サービスを拡充してまいります。ライフ市場では、医薬品向け製品・サービスの充実を図るとともに、食品・化粧品分野への展開や医療機器の試験分野への取り組みを進めてまいります。また、航空宇宙分野など新しい領域の開拓にも努めてまいります。

3. 国内環境試験事業の勝ち残り

ネットワークサービスなど当社独自のサービスや標準製品のモデルチェンジ・機種拡大により競争力を強化してまいります。また、先端技術開発のニーズによりスピーディに対応するため、カスタム製品のモジュール標準化を推進するとともに他社との協業に取り組み、対応範囲をさらに拡大してまいります。



□ 福知山工場のご紹介 操業 40 周年を迎えた福知山工場をご紹介します。

1974年に操業を開始した福知山工場は、世界No.1の環境試験器の生産能力を誇るエスペックグループのマザー工場です。海外では、米国、中国の上海・広東、韓国の4カ所に生産拠点を設けておりますが、福知山工場は海外工場への生産技術指導や生産移転など、世界に広がる当社グループのモノづくりの中核的役割を担っています。

当社の製品は標準製品だけでも1,000を超えます。これに加え、お客さまのご要望に合わせてカスタマイズした製品を多数生産しています。受注と生産をリンクさせながら多品種少量生産が効率的に行える生産ラインを確立しており、高度化・多様化するお客さまのご要望にお応えしています。また、高品質の製品を作るために最新の設備の導入やQMC(Quality Management Circle)活動、3S(整理・整頓・清掃)活動の実施など生産現場の改善・改良を続けています。



福知山工場概要

所在地：京都府福知山市長田野町1-7
 操業：1974年
 総面積：54,822m²
 工場面積：18,039m²



第2工場内部



工場正門

操業40周年記念行事

また、福知山工場では「モノづくりの基盤は人づくり」という思想のもと、独自の教育を実施しています。高品質の製品を効率よく生産できる技能者の育成を目的に社内技能検定制度を導入し、毎年多くの従業員が試験に挑戦しています。

敷地内には、太陽電池パネルを設置した「福知山研修センター」を建設し、社内外の研修に活用しています。また、歴代製品を展示したエスペック歴史館「P³ (Pキュービック)」などの施設を備えています。



福知山研修センター



エスペック歴史館P³
(Pキュービック)

歴史館内部

「Nexus(つながり・結びつき)～エスペックの礎となるモノづくり文化をより良くしよう～」をテーマに操業40周年記念行事を8月に開催しました。式典やチャリティバザーなどを行い、お取引先のみなさまをはじめ、従業員やご家族など約530名が参加しました。また、工場見学会を開催し、お取引先さまや従業員のご家族をご招待しました。



お取引先さまと記念撮影(写真上)
 従業員・ご家族 工場見学会(写真下)

テュフズードジャパン株式会社と業務提携

10月に、自動車の安全性試験・認証サービスを軸に世界展開するテュフズードジャパン株式会社と車載用二次電池などに関する安全性試験、試験コンサルティング、認証サービスの提供において業務提携しました。近年、エコカーの普及に伴い車載用二次電池の安全性試験の重要性が世界規模で高まっています。2013年には、国連欧州経済委員会において、「バッテリー式電気自動車に係る協定規則」が改正され、2016年7月以降に新規認可される電気自動車等は国連協定規則に適合することが義務づけられます。業務提携により、当社のエナジーデバイス環境試験所(宇都宮)において、国連協定規則対応の試験・認証サービスをワンストップで提供してまいります。



調印式
 エスペック株式会社 代表取締役社長 石田雅昭(写真右)
 テュフズードジャパン株式会社 代表取締役社長 アンドレアス シュタンゲ(写真左)

小型超低温恒温器ミニサブゼロの発売

7月に、新しい「小型超低温恒温器ミニサブゼロ」を発売しました。本製品は、コンパクトながら低温域(-85℃)から高温域(+180℃)の幅広い温度範囲を精密に制御する装置で、さまざまな低温保存試験や温度特性試験に使用されています。



ライトスペック恒温恒湿器の発売

7月に、新しい「ライトスペック恒温恒湿器」を発売しました。本製品は、100V/15Aの電源で運転でき、研究室や実験室での使用に適した装置です。さまざまな分野での研究用途や食品・化粧品の保存試験などに使用されています。



小型環境試験器がグッドデザイン賞を受賞

小型環境試験器が「2014年度グッドデザイン賞」を受賞しました。コンパクトなボディに機能を実装した点や、本体装置と多彩なオプションを統一感を持ってデザインした点が評価されました。



株主アンケート結果のご報告

第61期株主通信のアンケートでは多くの株主さまからご回答をいただきました。

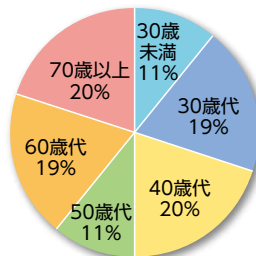
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

みなさまからの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えています。

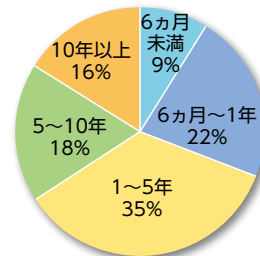
株主通信に掲載を希望されているテーマやご意見について一部ご紹介します。

ご回答者数 **2,125名** (男性:75% 女性:25%)

世代別



当社株式保有期間



株主さまからの声

将来目指している姿を示してほしい。

P.3～4の特集で中期経営計画「プログレッシブプラン2017」についてご紹介しております。達成に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいります。

東証IRフェスタで説明を受けました。

今後もっとPRしてほしい。

ご来場いただきまして、誠にありがとうございました。今年度も出展を予定しております。多数のご来場お待ちしております。

東証IRフェスタ2015のご案内

2015年3月13日(金) 10:00～19:00

2015年3月14日(土) 10:00～17:00

東京国際フォーラムB2F 展示ホール1、2

福知山工場など拠点の紹介をしてほしい。

P.5～6TOPICSで福知山工場をご紹介しました。今後ご要望に応じて誌面の充実を図ってまいります。

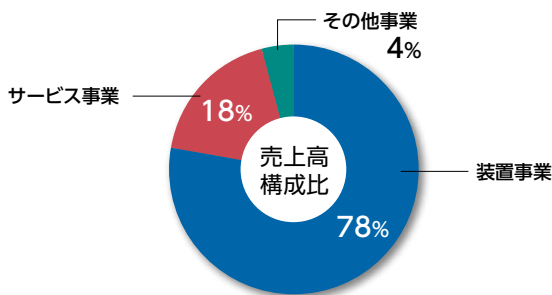
今後も当社へのご理解を深めていただくための活動に積極的に取り組んでまいります。

よろしくお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部
IR・広報担当 大川奈津子



事業セグメント別概況



〈装置事業〉

- 環境試験器
- エナジーデバイス装置
- 半導体関連装置
- FPD関連装置

〈その他事業〉

- 環境エンジニアリング
森づくり・水辺づくり・都市緑化など
- 新規事業
植物工場など

〈サービス事業〉

- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

装置事業

売上高は微減となったものの、利益は増加

環境試験器では、国内において投資意欲の改善が見られ、汎用性の高い標準製品が好調に推移しましたが、カスタム製品は好調であった前年同期の水準には及びませんでした。海外では、中国・欧州への輸出や米国子会社が堅調に推移し、環境試験器の売上高は前年同期比で増加しました。

エナジーデバイス装置では、車載用二次電池の充放電評価装置の受注を獲得するとともに、パワー半導体の評価装置が堅調に推移し、売上高は前年同期比で増加しました。

しかしながら、半導体関連装置の売上高は好調であった前年同期の水準に及ばず、FPD関連装置についても大型案件が少なく前年同期比で減少しました。

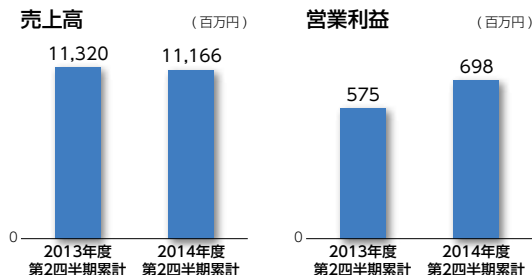
装置事業全体では、前年同期比で売上高は1.4%減少しましたが、営業利益は売上構成の変化などにより21.5%増加しました。



恒温(恒湿)器
プラチナスJシリーズ



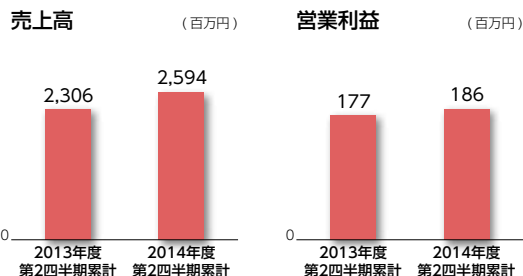
パワー半導体評価用
パワーサイクル試験装置



サービス事業

受託試験が好調に推移し、増収増益

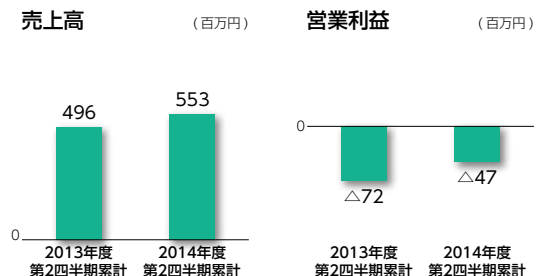
アフターサービス・エンジニアリングの売上高は前年同期比で増加しました。受託試験・レンタルでは、自動車市場において主力のテストコンサルティングが好調に推移し、売上高は前年同期比で増加しました。サービス事業全体では、前年同期比で売上高は12.5%増加し、営業利益は5.0%増加しました。



その他事業

売上高は増加、利益面は改善したものの営業損失

環境エンジニアリングでは森づくりが好調に推移するとともに、植物工場事業についても売上高が前年同期比で増加しました。その他事業全体では、売上高は前年同期比で11.3%増加し、利益面につきましては、前年同期比で改善したものの営業損失となりました。



要約財務諸表

連結貸借対照表

(百万円)

| 科目 | 当第2四半期末 2014年9月30日 | 前第2四半期末 2013年9月30日 | 前期末 2014年3月31日 |
|----------------|-----------------------|-----------------------|-------------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | 29,067 | 28,288 | 30,503 |
| 固定資産 | 13,045 | 11,711 | 12,527 |
| 有形固定資産 | 9,359 | 8,647 | 9,257 |
| 無形固定資産 | 288 | 197 | 246 |
| 投資その他の資産 | 3,397 | 2,866 | 3,022 |
| ① 資産合計 | 42,113 | 39,999 | 43,031 |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | 7,260 | 6,928 | 8,497 |
| 固定負債 | 1,774 | 1,625 | 1,721 |
| ② 負債合計 | 9,035 | 8,554 | 10,219 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | 32,897 | 31,644 | 32,546 |
| 資本金 | 6,895 | 6,895 | 6,895 |
| 資本剰余金 | 7,172 | 7,172 | 7,172 |
| 利益剰余金 | 19,189 | 17,936 | 18,838 |
| 自己株式 | △360 | △360 | △360 |
| その他の包括利益累計額 | △76 | △445 | 5 |
| 少数株主持分 | 256 | 246 | 258 |
| ③ 純資産合計 | 33,078 | 31,445 | 32,811 |
| 負債純資産合計 | 42,113 | 39,999 | 43,031 |

① 総資産

前期末と比べ917百万円の減少となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加220百万円、受取手形及び売掛金の減少2,443百万円、仕掛品等のたな卸資産の増加653百万円、固定資産の増加517百万円などによるものです。

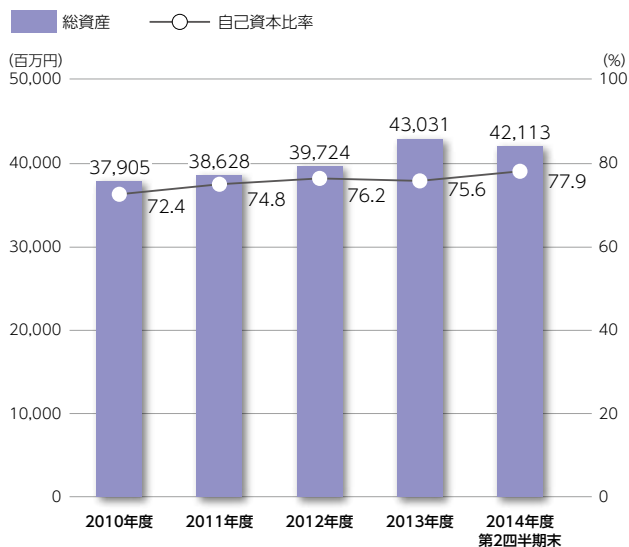
② 負債

前期末と比べ1,184百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少868百万円、未払法人税等の減少215百万円などによるものです。

③ 純資産

前期末と比べ266百万円の増加となり、その主な要因は利益剰余金の増加350百万円、その他有価証券評価差額金の増加199百万円、為替換算調整勘定の減少291百万円などによるものであります。

総資産／自己資本比率



連結損益計算書

(百万円)

| 科目 | 当第2四半期累計 2014年4月1日から 2014年9月30日まで | 前第2四半期累計 2013年4月1日から 2013年9月30日まで | 前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで |
|------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------|
| 売上高 | 14,196 | 14,039 | 32,099 |
| 売上原価 | 8,981 | 9,250 | 21,367 |
| 売上総利益 | 5,215 | 4,788 | 10,731 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,377 | 4,108 | 8,654 |
| 営業利益 | 837 | 680 | 2,077 |
| 営業外収益 | 122 | 138 | 312 |
| 営業外費用 | 7 | 8 | 19 |
| 経常利益 | 953 | 811 | 2,370 |
| 特別利益 | 1 | 2 | 2 |
| 特別損失 | 0 | 2 | 17 |
| 税金等調整前四半期(当期)純利益 | 954 | 811 | 2,356 |
| 法人税等 | 350 | 282 | 731 |
| 少数株主利益 | 13 | 25 | 53 |
| 四半期(当期)純利益 | 590 | 503 | 1,570 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

| 科目 | 当第2四半期累計 2014年4月1日から 2014年9月30日まで | 前第2四半期累計 2013年4月1日から 2013年9月30日まで | 前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで |
|----------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------|
| ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,097 | 585 | 838 |
| ⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー | △321 | 96 | △1,266 |
| ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー | △309 | △273 | △452 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △109 | 299 | 464 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 356 | 708 | △415 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 12,853 | 13,268 | 13,268 |
| 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 | 13,209 | 13,976 | 12,853 |

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

1,097百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、売上債権の減少2,341百万円、たな卸資産の増加866百万円、法人税等の支払544百万円などによるものです。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

321百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出373百万円などによるものです。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

309百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、配当金の支払額301百万円などによるものです。

会社概要・株式の状況・株主メモ

会社概要(平成26年9月30日現在)

| | |
|------|-------------------------|
| 社名 | エスペック株式会社 |
| 本社 | 〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6 |
| 創業 | 昭和22年(1947年)7月25日 |
| 設立 | 昭和29年(1954年)1月13日 |
| 資本金 | 6,895百万円 |
| 従業員数 | 1,354名(連結) 828名(単体) |

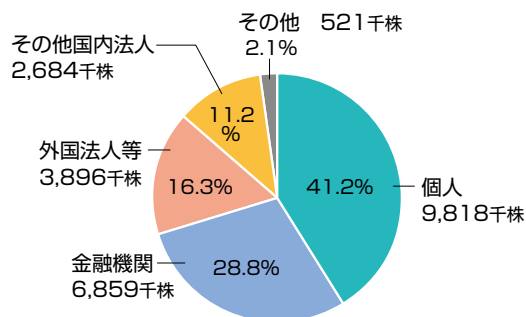
役員(平成26年6月25日現在)

| | |
|---------|--------|
| 代表取締役社長 | 石田 雅 昭 |
| 常務取締役 | 島田 種 雄 |
| 常務取締役 | 石井 邦 和 |
| 取締役 | 桶谷 馨 |
| 取締役 | 村上 精 一 |
| 取締役 | 大島 敬 二 |
| 社外取締役 | 志関 誠 男 |
| 常勤監査役 | 村上 充 |
| 常勤監査役 | 小田 隆 昭 |
| 社外監査役 | 山本 哲 男 |
| 社外監査役 | 堤 昌 彦 |

株式の状況(平成26年9月30日現在)

| | |
|---------|----------------------------------|
| 発行済株式総数 | 23,781,394株 (自己株式521,815株を含む) |
| 株主数 | 5,984名 |

所有者別株式数分布状況



大株主

| 株主名 | 持株数 千株 | 持株比率 % |
|--------------------------------------------|-----------|-----------|
| エスペック取引先持株会 | 1,926 | 8.09 |
| 日本トラスティバシス信託銀行株式会社(信託口) | 1,372 | 5.77 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 878 | 3.69 |
| エスペック従業員持株会 | 836 | 3.51 |
| 日本生命保険相互会社 | 790 | 3.32 |
| エスペック株式会社 | 521 | 2.19 |
| 株式会社みずほ銀行 | 513 | 2.15 |
| CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO | 510 | 2.14 |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041 | 488 | 2.05 |
| 株式会社立花エレテック | 419 | 1.76 |

株主メモ

| | |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 決算期 | 毎年3月31日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 中間配当制度 | 有 |
| 基準日 | 3月31日および取締役会決議によって あらかじめ公告して臨時に定めた日 |
| 株式上場取引所 | 東京証券取引所(証券コード:6859) |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| 郵便物送付先 | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 電話お問合せ先 | 0120-288-324(通話料無料) |
| お取扱店 | みずほ証券株式会社 (本店および全国各支店、プラネットブース[株式会社みずほ銀行内の店舗]) みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) |
| 未払配当金のお支払い | みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店) (みずほ証券株式会社では取次のみとなります) |
| 公告方法 | 電子公告 電子公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載 |

お問合せ先

エスベック株式会社 コーポレートコミュニケーション部
Tel:06-6358-4744 e-mail: ir-div@espec.jp

ホームページのご案内

業績・財務データ、株式情報、製品情報などさまざまな情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

<http://www.espec.co.jp>



証券コード: 6859

エスペック株式会社

